



広報こしら" 1977 12/1

No. 153

■ 発行 / 越路町役場 (新潟県三島郡越路町) TEL (02589) 2-3111 ■ 印刷 / 大川印刷株式会社



町の人口	
住民基本台帳人口 (10月末日現在)	
世帯数	3,144戸
人口	13,902人
内訳	男 6,777人 女 7,125人
前月比	-2 +12 +7 +5



十一月三日、恒例の町民駅伝大会が町内一周二十六・六キロメートルのコースで、参加二十六チーム、選手総勢二百六十名により熱戦が展開された。

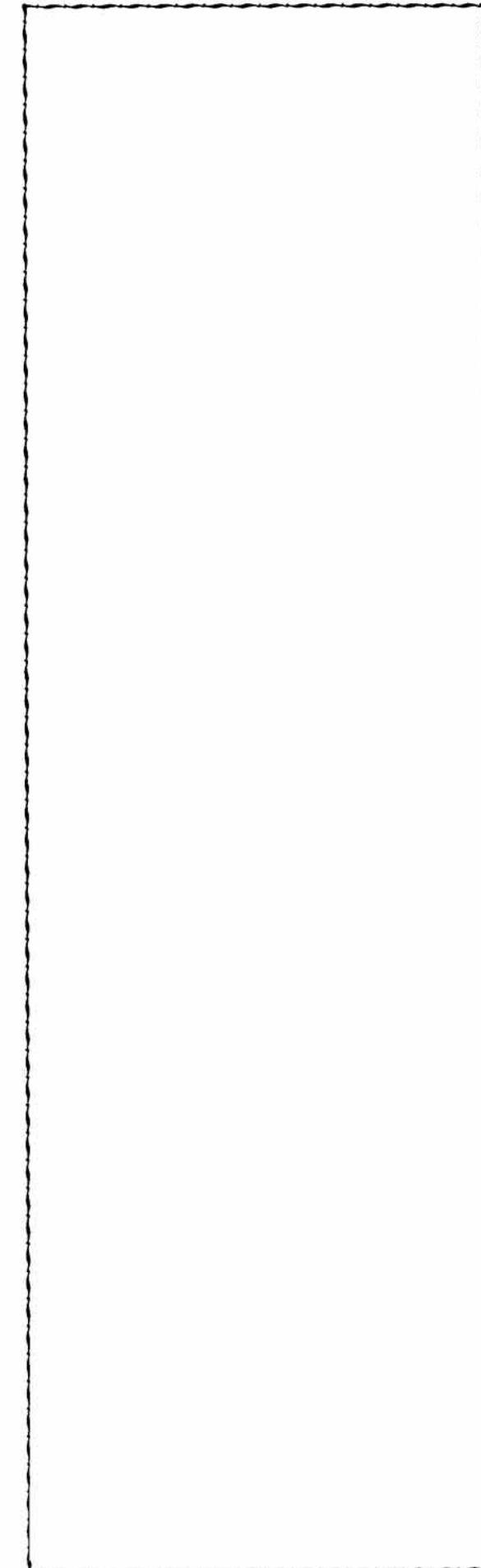
町民駅伝大会

火事
一・九番へは
救急車は

お し 5 て

12月 広報カレンダー

1 木	防火デー	17 大 土安	
2 金		18 日	
3 土		19 月	
4 日		20 火	心配ごと相談 (1:00~1:00福祉センター) 国民年金相談日 (9:00~1:00役場)
5 月減 大 火安		21 水	行政相談 (9:00~2:00役場) 高令者職業紹介 (1:00~4:00福祉センター)
6 水	心配ごと相談 (1:00~4:00福祉センター)	22 木 木減	乳児検診 (2:00~3:30岩田公民館)
7 木		23 大 金安	
8 金		24 土	
9 土		25 日	
10 日安		26 月	
11 大 日安		27 火	心配ごと相談 (1:00~1:00福祉センター)
12 月		28 水 木減	官房御用納め
13 火	心配ごと相談 (1:00~4:00 福祉センター)	29 大 木安	
14 水	乳児検診 (2:00~3:30福祉センター)	30 金	
15 木	乳児検診 (2:00~3:30 塚野山集落開発センター)	31 土 年越	
16 金 減	乳児検診 (2:00~3:30福祉センター)		



西谷 不動沢 飯塚 沢下条 朝日 岩野 浦辺
上田 酒井 中静 重野 平沢 岡村 丸山 佐
ヒロ 二三ツネ シツネ セツネ タツネ ハツネ

言うまでもなく民生委員は皆さんの手足となって地域住民の福祉の増進に努めていただく方です。気軽にご相談ください。

なお、十一月二十日をもって退任されることになりました次の七名の方々には大変長い間ご苦劳様でした。これからも地域住民の福祉向上にご協力くださるようお願ひ申し上げます。

当町においても先般民生委員推せん会において、審議の結果別表二十六名の方々がこれから三年間町の民生業務についてご尽力願うことになりました。

新民生（児童）委員決まる



「ご協力ありがとうございました

十月一日から行なつて参りまし
た今年の赤い羽根共同募金につき
ましては、大変ご協力をいただき
まして目標額を七十二パーセント
超え完納することができました。
この善意による募金は、各種社
会福祉施設、民間社会福祉事業者

格別のご協力を賜りました皆さんに対し深く感謝申し上げ、募金実績を次のとおり報告いたします

新鋭除雪車を購入

車を購入

旅二百紅葉の溪の名残りかな
空高くひびくエンジン秋耕す
狂い咲く花も見えけり秋惜む
取入れもすまし秋耕夫婦ずれ
草の実のつきし作業衣脱ぎ捨てる
秋耕の土黒々と低き雲
収穫もすんで秋耕樂しめる
庭の木々囲ふ一日や秋惜む
草の実に落陽さし居り庭の隅
草の実の黒くゆれおり月の下
旅立ちに深み行く秋惜しみけり
草の実の足にからまる田圃道
鉢の菊地に下ろしけり秋惜む
草の実のこぼるし山衣着替えけり
秋耕や麦蒔く田打はじまりぬ
薬湯にする草の実を吊しけり
小春日や家族づれる菊花展
夕ねぐら指して鳥行く空高く
石一つ拾ふて秋を惜みけり
脱ぎ捨てし野良着草の実こぼしけり
上弦の月松にあり秋惜しむ
草の實に顔なぶられつ道祖神

旅歩るき陽に恵まれつゝ秋惜む
名園の日向草の実はじけおり
旅三日紅葉の溪の名残りかな
空高くひびくエンジン秋耕す
狂い咲く花も見えけり秋惜む
取入れもすまし秋耕夫婦ずれ
草の実のつきし作業衣脱ぎ捨てる
草の実のつきし作業衣脱ぎ捨てる
秋耕の土黒々と低き雲
秋耕の土黒々と低き雲
収穫もすんで秋耕楽しめる
庭の木々囲ふ一日や秋惜む
草の実に落陽さし居り庭の隅
草の実の黒くゆれおり月の下
旅立ちに深み行く秋惜しみけり
草の実の足にからまる田圃道
鉢の菊地に下ろしけり秋惜む
草の実のこぼるし山衣着替えけり
秋耕や麦蒔く田打はじまりぬ
薬湯にする草の実を吊しきり
小春日や家族づれる菊花展
夕ねぐら指して鳥行く空高く
石一つ拾ふて秋を惜みけり
脱ぎ捨てし野良着草の実こぼしきり
上弦の月松にあり秋惜しむ
草の実に顔なぶられつ道祖神
鶴頭のホームに燃ゆる無人駅
大稻架の裾ひたひたと秋出水

俳句文藝

相聞

越路俳壇

大平平小松白田内横丸 平沢高永
全矢全沢全石全林全井全井全中全山全 全山全人
人銀人た人あ人満須子代藏治治藏次 美代太郎
潮づき

作文

でもちをつかしてくれました。
ぼくのばんがきたときドキドキしました。いつしようけんめいきねをもちあげたけどとてもおもしりました。それからしばらくしてまちができました。
みかんがいちばんさきにきました。はしがきておしるがきました。
ぼくは、おしるにもちがはつていいと思いました。それで
「いただきます」をして、おちゃわんにはしきを入れてみるともちがはつていました。
ぼくは「なあんだもちははいつていたんじゃないか」とよろこびました。あんまりおいしかったのでまたおかわりをしました。

越小四年生 永井 美恵子

